

公益社団法人仙台青年会議所 2012年度 広報誌

JCI

公益社団法人 仙台青年会議所

のぞみ

Public relations magazine "NOZOMI"

Vol.396

2012

12

◇JCI会頭訪問

姉妹JC交流

アワード受賞

◇2012年度下半期活動報告

◇東北地区・宮城ブロック報告

◇次年度理事長挨拶

◇新入会員紹介

対談

女川町長

須田 善明

×

公益社団法人仙台青年会議所
第61代理事長

茂木 宏友

子供たちの未来を切り拓く

本誌は仙台青年会議所活動を幅広く一般の方々に広報するための情報誌です。
仙台青年会議所公式ウェブサイトでも本誌に掲載された内容の一部をご覧いただけます。

<http://www.sendai-jc.or.jp>

創業40年の信頼と実績で
あらゆる建築物を蘇らせ
新たな『価値』を創造します。

- 特殊建築物調査診断業務
- ビル・マンション外壁改修工事
- 耐震補強工事
- 防水工事
- 塗装工事
- アスベスト処理工事
- その他 工事



仙台市太白区長町 7-18-28
TEL : 022-249-2161 FAX:022-249-2162
<http://www.chouei-kougyo.co.jp/>

テイエヌビル TN BLDG.

駅徒歩5分の好立地、都心への
アクセスもスムーズ・快適に

テナント募集中

所在地：仙台市宮城野区榴岡 4-12-7
竣工年月：1992年12月
構造：10/階建
最寄り駅：JR 仙台駅東口 7分



理事長挨拶

公益社団法人仙台青年会議所第61代理事長

茂木 宏友

Hirotomu Mogi

Profile

1974年5月1日生まれ
 2003年 入会・会員開発委員会
 2004年 七夕花火祭特別委員会幹事
 2005年 人間力開発委員会副委員長
 2006年 例会委員会委員
 宮城ブロック総務委員会委員長
 2007年 財務運営会議副議長
 みやぎJCアカデミー委員会幹事
 まちのしあわせ創造委員会委員長
 2008年 副理事長
 2009年 副理事長
 2010年 専務理事
 2011年 副理事長
 日本JC規則審査会議副議長
 2012年 理事長



早いもので2012年も残すところ後1か月を切りました。本年度も仙台青年会議所の事業に、多くの皆さまのご支援とご協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

震災から1年目の本年、解決しなければいけない課題が山積している中で、青年会議所としてできることは何か、真の復興とはいかなる状態を示すべきかを念頭におきながら、活動を続けてまいりました。

年初に掲げた理事長所信において、仙台青年会議所がめざすべき復興とは、私たちが理想とするまちの実現であり、価値観が大きく変わる時代の転換期において、このまちに感謝の想いが溢れ、子どもたちが自ら未来を切り拓くことのできるまちなることが、私たちの理想に近づくものと定義させていただきました。今回の広報誌のぞみでは、本年度の仙台青年会議所の行った事業のご報告をさせていただきます。今年度の事業によって、このまちが劇的に変化を遂げたわけではありませんが、本年度の運動が5年後、10年後の仙台に少しでもよい変化をもたらすものと信じております。また、今回は、壊滅的な被害を受けた宮城県女川町の須田善明町長との対談をご紹介します。須田町長は、石巻青年会議所の現役会員でもあります。須田町長が故郷の再建にける想い、そして長期にわたる復興へのプロセスを自ら見届けるまで地域を牽引していく気概を感じ取っていただければ幸いです。

震災から間もなく2年を迎えることとなりますが、被災地の課題は山積しております。震災の風化が進んでいく中で、誰かに頼るのではなく、この地域で活動を行う私たちが被災者に寄り添い、この地に暮らす私たち自身の自立が、復興への近道であると考えます。

おかげさまで、仙台青年会議所でも2013年度の理事長率いる新体制が決まりました。62年目を迎える私たちの運動が歩みを止めることなく、来年も全力で活動させていただきますので、あらためまして皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

Contents

03 理事長挨拶

04 理事長対談

女川町長

公益社団法人仙台青年会議所第61代理事長

須田善明 × 茂木宏友

09 JCI会頭訪問

姉妹JC交流・アワード受賞

10 2012年度下半期活動報告

12 東北地区・宮城ブロック報告

13 次年度理事長挨拶

2013年度理事長予定者 山田 宗基

14 新入会員紹介

担当委員長のあいさつ

15 編集後記



女川町長

須田 善明

×

公益社団法人仙台青年会議所
第61代理事長

茂木 宏友

子供たちの未来を切り拓く

昨年の3.11に壊滅的な被害に見舞われた女川町復興の重責を自らに課し同年11月に39歳の若さで町長に就任した須田善明氏は現役のJAYCEEでもある我々の世代は震災と復興にどの様に向き合いそして何ができるのか 二人の熱い想いを語り合う

震災直後の混乱。外部のどこに、どのように連絡したらよいか、この時間解っているのは女川町内で私ひとりしかいないのではないかと、とにかく自分が動かなければと思った(須田町長)

【茂木理事長(茂)】本日は、震災の復旧・復興の公務でご多忙のところ、対談のお時間をいただきありがとうございます。町長は石巻JICの現役役員として活動され、個人的な話になりますが、私にとつては石巻高校の2年先輩にあたります。本日はどうぞ宜しくお願いします。

【須田町長(須)】本日は、遠いところ女川町までお越しいただきましてありがとうございます。また、震災直後から今まで、JICの皆さまから様々なご支援をいただいたこと、本当に感謝しております。そして色々なご縁で今回対談の機会をいただきありがとうございます。

【茂】震災当時、まだその時は町長ではなかったかと思うのですが、どのような行動をなさったかお聞かせください。

須田 善明
×
茂木 宏友

【須】私は、県議会議員として活動しており、議会の委員会後、三陸道を降りて地元の女川町に戻る最中に、緊急

地震速報が鳴りました。その直後、もの凄く揺れに大変驚きました。これは宮城県沖地震がいつに来たかと思いました。

【茂】そうですね。かなり強い揺れでした。

【須】我々海沿いに暮らす人間は、地震津波をすぐに連想します。あの規模の揺れなら間違いなく津波が来るだろうと判断し、急ぎ女川町へ向かいました。信号は消え、道路もかなり損壊し、ラジオでは途轍もなく巨大な津波が押し寄せてくると報じていました。

【茂】確かに津波予測の一報には私もかなり驚きました。

【須】結局、日が落ちるくらいに、町内では地域の情報が途絶している状態でした。まず被害状況を正確に把握しようとしたのですが、その状況を伝えようとしても電話も通じません。情報が入らない、伝えられない状況で、外部のどこに、どのように連絡したらよいか、この時間女川町内で解っているのは、多分私ひとりしかいないのではないかと、誰とも連絡が取れない状況の中、とにかく自分が動かなくては、と思ったのです。緊急だということもあり、ショートメールで知事の携帯へ被災状況の全容を夜半まで送り、翌日は早朝から県の災害対策本部へその状況を伝えることに重点をおき、手書きでまとめた情報を災害対策本部に急いで伝えました。

【茂】通信網の発達した現代日本に



も関わらず危機的な状況に陥り、災害時に一切の情報が断絶するという恐怖を経験しました。

【須】村井知事との対談(のぞみ2012年7月号)にもありましたが、JICの皆さまが災害対策本部にいらっしやいました。発災後の困難な状況下で、県民の命をつなぐ役割を担い、組織を挙げ皆さんが必死に活動していただいたことには本当にありがたいと思っております。

行政のルールが緊急時においても3月10日以前のルールだった(須田町長)

【茂】それから一年半以上が経ち、今日に至るまでに感じた様々な想いをお聞かせください。

【須】震災直後から、様々な物資、或いは支援をいただけるように懸命に努力いたしました。当時は自民党の宮城県連幹事長も務めており、全国ネットワークを最大限活用し支援の取りまとめを行ないました。一番困ったのは、3月11日以降あらゆる状況が変わったにも関わらず、緊急時においても物事を捌く行政のルールが3月10日以前のルールだったことです。

【茂】具体的にお聞かせください。

【須】例えば家も車も流された人が、車が欲しいと中古屋さんに行く。所轄から車庫証明を出してくださいと言われる。そんな事言われても自宅はもちろん、一面ガレキだらけですよ。また石巻の水産

加工業者の方からは、倉庫に入っていた魚のうち流されたものは災害廃棄物、残ったものは産業廃棄物の扱いになるのはどうしてかというような相談もありました。他にも道路の復旧に際し、国道、県道、町道の管理区分の問題がありました。

【茂】この未曾有の災害時に平時のルールの適用ではやはり困ります。現状に法整備が追いついていない部分がありました。

【須】その管理区分の問題や、それを縛るルールとのギャップを一つひとつ解決するために苦労しました。実はそういう局面が未だ残っており、復興事業をやるにあたっても通常のルールで捌かざるを得ないものが山ほどあります。その手続きひとつ取っても、スピード感のある柔軟な対応を今後も関係機関にお願いしていかなければならないと思っております。

我々若い世代が中心となり、自主的に行動する姿勢が必要(茂木理事長)

【茂】そのような状況から、町長に立候補した経緯、そして一番のきっかけは何だったのですか。

【須】何故自分が立候補したのかというのですが、これから20年が経った時、通常の日本の組織文化から言えば、会社の社長、或いは管理職、地区のまとめ役になっている可能性が高く、選任前後の私たちが社会全体の責任を負う世代と



プロフィール PROFILE

須田 善明

【略歴】

昭和47年6月3日生まれ
石巻高等学校・明治大学経営学部卒
株式会社電通東北(広告代理店)入社
平成11年県議会議員補欠選挙にて
初当選(3期連続当選)

【過去の役職等】

<県議会>
統括企画常任委員会委員長
環境生活常任委員会委員長
保険福祉常任委員会委員長
<自由民主党>
自民党宮城県連幹事長
自民党青年局中央常任委員会議長

【現在】

2011年11月より女川町の町長に就任

なりません。復興に何年掛かるか分かりませんが、20年後にはこの震災から立ち上がったまちを社会の責任世代として、間違えなく我々が背負うわけです。それならば、復興の一步目から積極的に関わりを持つことで、振り返ったとき自分たちが納得できるように、その責任を負って行きたい。そして子供たちの未来へ、その想いを繋いで行きたいと考えています。

【茂】それが決意に至った経緯ということですね。やはり我々若い世代が中心となり、自主的に行動する姿勢が必要だと感じています。須田町長の強い決意がある女川町は今後の復興に向けて力強い歩みが期待できると思います。

【須】ゼロからつくるまちづくり。何もない状態から積上げ、工夫し創造して行くことが、将来への糧になると思います。そして誰もが早期復興を成し遂げたいと考えております。しかし我々の復興とはいったい何なのでしょう。目の前の課題だけ、「今」という視点だけで取り組んではいけない。やはり将来向うベクトルを見定めるなかで「今」に対処していかなくてはいけないと言っている町民の皆さまに申し上げてきました。しばらく我慢していただくこともあると思いますが、それは次の世代に誇れるまちを残すためだと理解して欲しい。そうでなければ復興の意義が無くなってしまふ。住民説明会を、去年は40回、今年23回、また今後も開催していく中で、直接

自分自身の言葉でお話しをさせていただいています。ただ一番問題になっていることは、依然としてこの町の人口流出が続いている点です。震災前は1万人以上いた人口が約8100人まで減っており、住居、就労の自由はありません。最終的には個々の判断。被災した皆さんが真の意味での生活再建を一日も早く成し遂げること。これは行政の最大の役割であり、その結果として女川町に残るのか、移住するのか、実はどちらでも構わない。一方で女川町長、女川町という立場で申しますと、やはり一人でも多くの方にこの町で頑張っていただけの素地をつくらなければなりません。そういったジレンマに苛まれつつも、家を失われた方々への再建支援を急いで行っています。定住支援として新築の建物を建築した際には150万円、土地まで購入する場合はさらに50万円、合わせて200万円。中古住宅を取得される方に対しては、100万円を支援する施策です。お金を残すから残って下さいではなく、女川町でこの先頑張る方の覚悟を大事にしたいと思いを決めました。これから本格的な区画整理事業に入ります。個々の資産とか権利に関わっていく重要なパートを扱っていくことになりましたので、その取りまとめについては相当な困難が予想されます。スケジュールやプロセスを早く提示し、皆さんに理解、納得してもらいたい。

被災者自ら立ち上がる、自立することは重要だ。(茂木理事長)

【茂】確かに最終的にはご自身の判断になるとは思いますが、今後故郷のためにと考える若い世代が生まれてくるような取組みをJICが提案できればと思います。今年仙台JICでは、高校生を対象にした自立心と地域に対する愛情を醸成する事業を展開しております。将来的に、若い世代が自分たちの力でこの地域を再建して行こうと考えるきっかけになれば幸いです。ところで、女川町には全世界から多くの支援があったかと思いますが、今後どういった支援が必要だとお考えになりますか。

【須】一番はソフト面です。これからは人のこころ、コミュニティの問題が多くなると思います。仮設にお住まいの方はなかなか外に出にくくなります。今までと違う生活環境の中、メンタル的な問題をかかえている方もいらつしやいます。その方々にいろいろ潤いを与えていただくような活動は行政として心強いです。一方で支援をいただき対応すること、少々疲弊している部分もあります。やる人間とやれる人間に物事が集中している

須田 善明
×
茂木 宏友

が集中している現実。その部分をいかに克服して行くのが今後の課題

でもありません。行政に限ったことではないのですが、全体的なマンパワーの不足が挙げられます。そして良質なマンパワーを育成できるスキームをしっかりとつくりなければいけないと思います。

【茂】確かに今後の課題として本当に必要な支援だと思つて受け入れにしても、その体勢ができていないと、物事がスムーズに進みません。物資や支援の要請を受け入れる中で非常に重要なことだと思っています。

【須】先日衣料関係の方々から来て、新品あるいは新品に近い衣料品を無料配布したいと申し入れがありました。それならば、現在仮設店舗で営業している地元の衣料品店組合にその話を持つて行って下さいとお願ひしました。支援するならばただで配るのではなく、100円でもいいから値段を付けて売つて欲しいと。少しでも対価を払う。経済の循環は大事なことです。やり方を少し変えるだけで地元の商売を邪魔せずにプラスになる方法だと思ひます。

【茂】素晴らしい取り組みだと思います。与えられるだけの支援を長期間継続して受け続けることはいけません。この先子供たちが欲しいものを簡単に手に入れる環境が続くのは教育上も良くないと思ひます。私の故郷石巻でも、震災後状況が一変し、有名な人が大勢来たり、無償で支援を受けている状況が続きました。いつまでもこの異常な状況が続けば復興の妨げになるの



ではないかと思ひました。被災者自ら立ち上がり、自立することは重要だと思ひます。

【須】私は町外から来られた皆さんに何が必要ですかと問われた時に、支援ではなく一緒に育んでくださいと答えます。育むというのは一緒に遊んだり褒めたりするだけではなく、怠けていれば叱ることです。時間の経過があつて育む。我々育まれる方からすると、誰かが育ててくれるのではなく、自分で自分を育てて行くのです。実際にその時々々の局面を切り開くのは他の誰でもない、ここにいる町民一人ひとりではないでしょうか。その意識を強く持ち、誰かに頼るのではなく、まず自分の力だと思ひて進んでいきたいと思つております。

【茂】そうですね。何事にも自主自立の精神で取り組む姿勢は大切ですよ。

【須】震災直後に町民の皆さんが自主的に動いた光景を思い返します。震災翌日の朝以降、建設会社の方々には自主的に重機を出勤させ、道に積み重なる瓦礫の撤去作業をしました。水産加工業の方々には自社にあるタンクで給水作業を、消防団員は捜索活動を、その傍らでは交通整理をする人が自然に出て来ました。自分たちで自主的に始める。あの瞬間からしばらくの間は一億二千万の国民全員が、自分に何が出来るのかということに自らに問ひかけた瞬間であつたと思ひます。自発的に動き出したあ

の風景に、町民の底力を強く感じました。まさにそういう氣質が、この女川町の中に強く残つております。いま町内には20代で組織する福幸丸という団体があります。これは発災後にできた女川町在住、あるいは出身の同世代の集まりで、まちづくりの様々な場面で活躍してくれています。こういう田舎町で20代が突出して出てくるのはなかなか難しいのですが、それが今このまちでは出来ております。背中で見せて教えてくれる先輩、40代、50代との連携も上手くできています。町内のある一部かもしれないけれども、各世代がひとつに繋がっているのは今後の女川の貴重な宝、大きな力になると思ひます。

JICとはそのような修練を日々繰り返しながら地域に貢献しようとする懸命に努力している組織(須田町長)

【茂】女川町にそういった風土、伝統が根付いているのは素晴らしいことだと思ひます。復興に向かつて、自分たちのまちを自分たちでつくりたいと一致団結していくことは、大変良い傾向だと私も感じます。ところでJICの対談ということで町長もJICの現役会員ですが、そのような観点から何かJICに対して期待すること、JICの可能性について、町長の考えをお聞かせ下さい。

【須】まず同世代で、これだけ地域

須田 善明
×
茂木 宏友

子供たちの未来を切り拓く



硬い握手を交わす須田町長と茂木理事長



女川港にて被災説明をする須田町長



女川町内に残る震災の爪あと



茂木理事長より須田町長へ記念品の贈呈

に密着し根を張って全国的に展開できる組織は、そう多くないと思います。JICには利害関係がありません。それは大事なことです。日本中、また全世界が地域の垣根を越えて同世代で活動できる組織があるということは、素晴らしいことです。互いに自主自立の精神で、運動を展開していること。またその中で培う友情の尊さ。その存在意義は一人ひとりが思っている以上に、実は大きいと思うのです。目の前の問題を打開するのは誰なのかといえは自分自身です。誰かが何かやってくれるわけではなく、そこに向かって突き進むも諦めるも最後は自分です。自分たちがあがく、汗をかく、何かに向かうとする、そこで頑張ろうとするから誰かが手を差し伸べるのであって、頑張ろうとしない人には誰も手を差し伸べてはくれないでしょう。JICとはそのような修練を日々繰り返しながら地域に貢献しようという懸命に努力されている組織であり、同じ価値観があると思うのです。アクションを起こせば何かに対して間違いなく影響を与える。そして困難な局面に立ち向かい続けることで、必ずその局面を打破し変えることができます。これから40歳を境にしてJICを卒業し、まさに名実ともに社会の中において責任世代になります。自分たちが望むような社会の在り様を、我々自身の手でつくっていくかなければなりません。そのような考えをみなさんと共有し、行動し

ていくことで、この地域の未来、或いはこの日本の行く末すら、もしかしら変えていけるのではないかと思っております。この震災は本当に辛かったけれど、私たちが将来どのような歩んでいくのかという問いに対して考える一つの契機だと思っております。今まで無価値に思っていたものが実は価値があるのだと皆が気づき、価値があると思っていた、或いはこれが頼れると思っていたものが実は何ら無価値であるとそれぞれに感じたのかもしれない。

10年後或いは20年後に「俺たち精一杯やったよ」と子供たちに言いたい。(須田町長)

【茂】先ほど町長がおっしゃったこと私もよく分かります。JICでは、無関心層に働きかけをして意識を改革する、それを運動として展開しております。この震災を経験し、我々は自分たちのまちや、国の問題を自分たちの問題として捉える意識を持ちました。その意識を、我々は忘れずに、今後も明るい豊かな社会の実現に向けて、仲間と力を合わせ取り組まなければならないと考えています。最後に女川町の未来に向けて、子どもたちへメッセージをお願いします。

【須】下を向いている暇があったら、前へ向かってあげようとする、その懸命な大人の姿というか、生き様を伝えたい。10年後或いは20

年後にここまでやれたと思うか、ここまでできなかったと思うか分からないですけども、「俺たち精一杯やったよ」と納得したいし、背中で子どもたちに示していきたい。振り返った時に後世どう評価されるか分からないけれど、俺たち全力でやったよ。そういう話をしながら、仲間とお酒を飲みたいですね。真剣に向き合っていて、やらないで後悔するより全力を尽くしたいと思います。

【茂】私もそのような人生を歩みたいと考えています。いつの日かそんな想い出話をしながら、一緒にテールで須田町長とお酒を飲みたいですね。そのときにはお誘いするので宜しくお願いします。

【須】こちらこそ是非宜しくお願いします。

JCI 会頭訪問



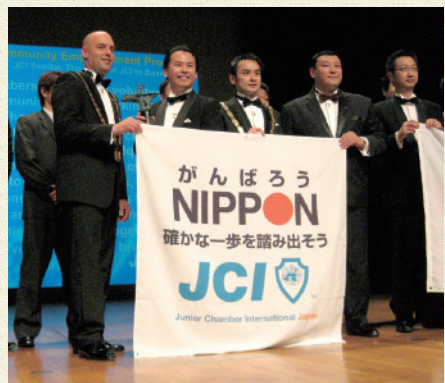
7月14日、JCI会頭ベルトルト・ダムス君(オランダ出身)夫妻、JCI事務総長エジソン・コダマ氏、日本JCI事務局長水野秀一氏が被災地訪問プログラムの一環として仙台を訪問されました。江陽グランドホテルにて行われた仙台JCI事業説明会では、ASAPACアワードを受賞した震災復興事業のプレゼンがなされ、7月に行われた感謝の想い溢れるプロジェクトの映像をご覧になられました。JCI会頭は仙台を訪問される前に気仙沼や南三陸などの被災地を視察しており、被害の甚大さを実感されたようでした。JCI会頭は、被災時における日本人の団結力と利他の心に強く感銘を受けられたようであり、災害などがあつた時のモデルケースにして世界に広めるべきだ、というお話しをいただきました。また、夕食会においては、茂木理事長をはじめとする仙台JCIメンバーとの交流を深め、世界各地のJCIが現在抱える問題点や世界の文化について活発な意見交換を行うとともに、仙台JCIへのエールをいただきました。今回のJCI会頭仙台訪問においては、JCI基金理事長後藤隆博先輩(仙台JCOB)にご臨席賜り、設営についてご協力をいただきましたことについて重ねて御礼申し上げます。

姉妹 JC 交流



10月21日、姉妹JCFイリピンのパラニャーケパンバトJCMマークデビッド理事長率いる7名のメンバーが公式訪問されました。パラニャーケパンバトJCIとは1976年に姉妹JCI締結に向け向LOMでの検討が開始され、翌年1977年に姉妹JCI締結、それ以降宮城青年の船事業を共催するなど、交流を重ねてまいりました。2007年以降交流が途絶えておりましたが、ASAPAC香港大会にて横浜JCIのご協力もあり、再会いたしました。マーク理事長と茂木理事長の意見交換の中、宮城青年の船や仙台JCI話をいただき、今後より一層強固な姉妹関係を結ぶ事と仙台訪問を行う事を約束しお別れいたしました。その後来訪時期の調整を行い今回の訪問となりました。仙台訪問に際し、東日本大震災の被災地視察を要望され、慰霊碑がある場所では祈りを捧げ犠牲者に哀悼の意を表しておりました。同日夜の交流会にて、姉妹JCI締結と共同事業に深く関わった仙台JCOBの先輩方から当時の事業内容、エピソードをお話いただきました。また、本年度向LOMの事業について情報交換し、実り多き1日となりました。

アワード受賞



2012年6月10日、2012年度JCI AWARD (JCI ASAPAC香港大会において、仙台JCIは、世界中からいただいた多くの支援に対する感謝の想いと、甚大な被害を受けた地域が自らの力でスピード感を持って復興に向け歩む姿を「THE WAVE OF JCI TO SAVE JAPAN」と題して、最優秀地域社会向上プログラムに申請をいたしました。その結果、最優秀地域活力推進賞を受賞し、併せて審査員から多くの支持をいただき、最優秀LOM事業賞を受賞することができました。申請内容は、仙台JCIが行政やマスメディアと協力関係を築き、世界中から提供された支援物資や市民ボランティアを受け入れ、被災地で求められている支援状況を的確に分析した上で行った生活支援と自立支援の活動記録でした。このJCI AWARD受賞を通し、支援活動期間中、メンバーが積極的にリーダーシップを発揮し活動したことや被災された方々や多くの支援団体及びボランティアが自立と共助の精神を学び、実践できたことが高く評価されたと共に、世界中の仲間からいただいた支援に対する感謝の想いをより広く発信することができました。

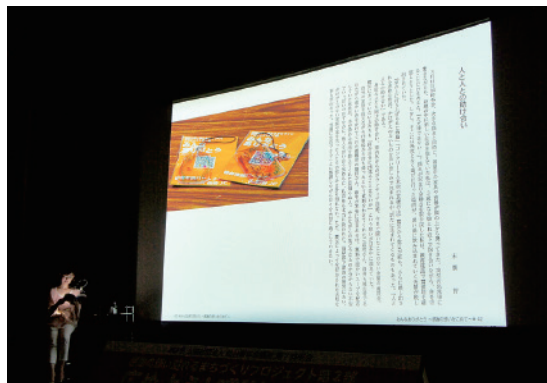
下半期活動報告

The activity report for the latter half of the year

2012年7月1日～11月31日



1 第7回例会「広めよう！感謝の想い」



7月15日(日)仙台クリスロード 商店街 桜井薬局セントラルホールにて第7回公開例会「感謝の想い溢れるまちづくりプロジェクト」を行い、これまでお手伝いいただいた市民サポーターの皆さまとともに、震災後多くの支援をいただいた方々に対し、感謝の想いを込めた手作り携帯ストラップの製作と配布、楽曲と映像の公開、また投函した手紙が5年後に届く「仙台市民の感謝箱」の投函受付などを行いました。

この事業を通じて、これまでの支援に対し、仙台市民の皆さまとともに感謝の想いを伝える機会となりました。ご協力いただいた皆さま本当にありがとうございました。

2 サマーコンファレンス2012



7月21日(土)22日(日)パシフィコ横浜においてサマーコンファレンス2012が開催されました。各界を代表する著名な講師をお招きして、政治・経済・社会情勢など様々なフォーラム・セミナーが行われました。国難に直面した今こそ、我々が正面から課題に向き合い、挑み、励まし合い、人のつながりを大切にしながら行動していかねばなりません。本年のサマーコンファレンスは、日本のプリンシプルを呼び覚まし、「凛然とした誇りある国家」日本の創造に向けた国民意識を喚起するとともに、地域社会へ持ち帰りそれぞれが率先して運動を展開していくことを目的に開催されました。

3 第43回仙台七夕花火祭



8月5日(日)第43回仙台七夕花火祭を開催いたしました。今年はいよいよ感謝の想いを胸に新たな仙台(まち)の創造へ向かってをテーマに、昨年の東日本大震災以来、全国・全世界から多くの支援をいただいたことに対し、感謝の想いを1万6000発の花火に込め、仙台の夜空に大輪の花を咲かせました。

今年も前日に安全祈願を行い、その後、奥山仙台市長をはじめ、日頃お世話になっている関係各所の皆さまをお招きして仙台七夕花火祭レセプションを開催いたしました。

そして当日には新たな試みとして勾当台公園市民広場にて、仙台を中心として活躍されるアーティストのライブや琉球太鼓の演奏、感謝のメッセージをのせた3000個の風船をリリースし、感謝の想いを全国・全世界へ発信いたしました。また、有料観覧席を例年の約4倍に拡大し、安全面にも考慮し、大胆かつ例年以上に発展させることができました。

当日は約50万人の来場者の中、仙台JCメンバーや市民サポーターが丸となった、安全でクリーンな仙台七夕花火祭を実施することができました。来場された仙台市民の皆さまにも仙台(まち)を愛する心を醸成する機会を提供し、またご支援くださいました関係各位に感謝の想いを発信することができました。ご支援、ご協力いただいた全ての方へ感謝申し上げます。

〜感謝の想いを胸に
新たな仙台の創造へ向かって〜



4 高校生ゆめフェスティバル



10月10日(水)仙台市立立町小学校にて「高校生ゆめフェスティバル」を開催いたしました。この事業は5月公開例会「高校生ゆめサミット」に参加した高校生が企画・運営の主体となり実施したものです。

前半に運動ブースとおちゃっこ交流ブースを開催し、昼食は高校生が仙台の食文化である仙台芋煮などを調理し皆さまに食べていただきました。また、後半からは体育館で仙台育英学園高等学校チアリーダー部や常盤木学園高等学校フラガールズ等の皆さまによるステージパフォーマンス、さらに事業の締めくりに、高校生が仮設住宅に関して調査、研究し集約したものを提言書として行政機関に発信いたしました。

この事業の主な目的は高校生たちが自ら考え企画、実施し自立へと繋げるということでした。この目的は十分に達成できたのではないのでしょうか。例えば雨が降りそうになると、高校生達は自発的にイスなどを屋内に片付け、事業終了後には運営側の高校生だけではなく、ステージ出演した高校生達も率先して、後片付けや掃除をしてくれたことがその証でしょう。

また地域のコミュニケーションをより深めることも目的としており、企画・運営した高校生約80名、ステージ出演した高校生約100名、仮設住宅の入居者の方約50名、そして立町小学校周辺地域、小中学校の生徒の皆さまに参加していただきました。人数の問題ではありませんが、この事業がしっかりと地域コミュニケーションの場となったことは間違いありません。

5 第61回全国会員大会北九州大会



10月11日(木)から10月14日(日)の4日間、全国で展開された本年度の青年会議所運動の集大成として、北九州の地で全国会員大会が開催されました。

全国のJCIが日本のプリンシプルを呼び覚ますとともに、連続と受け継がれてきた青年会議所運動のさらなる高みをめざし、それぞれが得た学びと気づきを「変わらないうために変わる」行動へと繋げ、「震災後」と呼ばれる新たな時代を築くための意識変革の機会となりました。

北九州メディアドームにて大会式典と卒業式が行われ、仙台JCIからも卒業生が現役メンバーとして最後の大会に、万感の想いを持ち参加しました。

6 第67回JCI世界会議台北大会



11月18日(白)〜11月23日(金)の6日間、台北の地で第67回JCI世界会議が開催され、世界各地のJCIメンバーと国際交流をする貴重な機会となりました。また、総会において次年度のJCIの体制が可決承認され、次年度JCI会頭のキラ・ミラ二君(イタリア)の挨拶がありました。

大会期間中は姉妹JCIのバラニャーケ・パンパドJCI(フィリピン)と・アイランドJCI(香港)と交流を深め、我々仙台JCIにとっては東日本大震災時に多大な支援を頂戴した台湾およびJCIを通じて世界中の仲間と多くの仙台JCIメンバーが参加し、感謝の想いを伝える絶好の機会となりました。

東北地区・宮城ブロック報告

東北地区協議会

東北地区協議会は、東北地区77の青年会議所から出向しているメンバーが集まり、「立ち上がろう！東北！新東北の再建は我々青年の仕事である」とのスローガンのもと、植松会長を中心として新東北の再建に向けて活動、運動を展開しております。



▲フォーラム1のパネラーを務める 会長 植松 悟 君

9月1日、2日に青森県五所川原市において「東北青年フォーラム in 奥津軽五所川原」が開催されました。約1600名のJCMメンバーが参加をし、「自立した新東北」の再建に向けた、東北地区協議会の運動を発信いたしました。

2日間にわたるフォーラムでは、東北ゼミナール委員会のゼミ生による発表、LOM共同委員会による会員拡大セミナー、震災復興特別会議による東日本大震災パネル展、「自立した新東北」再建委員会による再建ビジョンの発表などが行われました。

エンディングセレモニーでは来年



▲2013年度の開催地である社団法人大曲青年会議所による大会PR



▲震災復興特別会議による東日本大震災パネル展

度のフォーラム開催地であり、秋田県の大曲Jcへ大会の鍵が渡され、東北の復興へ向けた熱い魂が引き継がれました。

現在は11月30日に開催されます東北地区の卒業式に向けて日々準備を行っております。本年は秋田の地で開催予定となっております。地区協議会へ向かれ、尽力されてきたメンバーの卒業を祝うためにも多くのメンバーの参加をお待ちしております。

★詳しくは東北地区協議会ウェブサイトへ★

東北地区協議会 2012

GO

宮城ブロック協議会

宮城ブロック協議会は、あぶくま・石巻・泉・おおさき・栗原・気仙沼・さくら・塩釜・白石・仙台・とめらの11の青年会議所が集まり、宮城ブロック協議会として活動しています。地域に根ざした運動を展開し、宮城県をよりよいものに私達は日々活動しています。



▲メインフォーラムオープニングのディスカッション

「第42回宮城ブロック協議会大会 in 泉」が7月14日(土)イースミティ21で開催されました。メインフォーラムの第一部は「Re-life」と題して一橋大学教授の橋川武郎氏、参議院議員の片山さつき氏そして宮城ブロック協議会会長の齋藤孝志君によるディスカッションを行いました。サステイナブルな社会・持続可能な社会であるためのエネルギーの在り方についての意識を高めると共に、電力をはじめとするエネルギー使用者として有効的なライフスタイルについて両講師から講演をいただきました。

第2部の防災に関するセミナー「宮



▲参議院議員 片山 さつき氏による基調講演



▲一橋大学教授の橋川 武郎氏による基調講演

城出前講座「宮城に生きる世界一防災意識の高いまちMIYAGIの実現」は、宮城県総務部危機対策課危機管理班様による「地域の防災・減災力を高める」東日本大震災より学ぶことをテーマにご講演いただきました。「新たな災害に備えて、どのように対処し、心構えが必要なのか」について、東日本大震災を振り返りながら説明していただき、個人や家族でできる防災の内容を知ることができました。

この大会を通じて、改めて震災からの復興のためには我々青年会議所がどんな運動を展開すべきなのか、地域にどう関われば良いのかを学ぶ貴重な機会となりました。

★詳しくは宮城ブロック協議会ウェブサイトへ★

宮城ブロック協議会 2012

GO

2013年度

理事長予定者 挨拶

山田 宗基 Munemoto Yamada

【生年月日】 1974年4月12日

【JC歴】 2005年 会員開発委員会 委員
2006年 七夕花火祭特別委員会 委員
2007年 事務局 次長
2008年 七夕花火祭特別委員会 副委員長
2009年 財務運営会議 副議長
2010年 まちの希望創造委員会 委員長
2011年 副理事長
2012年 副理事長
日本JC出向
「凜然とした誇りある国家」創造会議副議長



Discover now, for the future! ～すてきな夢・すてきな仙台の実現へ～

私たちはまちを愛し、「すてきな仙台」をめざします
子どもたちが明るい豊かな社会でのびのびと暮らせるまちづくりをめざします
グローバルな視野を持ち、世界中の人々との相互関係を図り、まちの発展をめざします



地域の皆さまと共に強く前進いたしますので、どうぞ1年間よろしくお願ひ申し上げます。

62年目を迎える当会議所は、今まで以上に必要とされ、地域の皆さまと共に行動をし、助け合いながら親しまれる組織にならなくてはなりません。私たちは、明るい未来のために地域を探索し、まちを愛し、より良くしようという想いで「すてきな仙台」の担い手になるべきです。国内外の地域からたくさんの方の支援や協力をいただいた被災地として、感謝の想いを忘れることなく、この注目され続ける仙台をさらに理想とする社会として確立するために、世界へ発信できる「すてきな仙台」を築いてまいります。

公益社団法人仙台青年会議所2013年度の理事長を拜命することになりました。山田宗基と申します。
一昨年の東日本大震災は、かつて誰もが想像したことのない未曾有の大災害でありました。被害にみまわれた沢山の方々やそれぞれの地域では、今でも復興という言葉を使うには程遠い状況にあります。当会議所は一日も早い復興を成し遂げるべく、復興へ向けた解決すべき課題をしっかりと把握し、震災以前よりも整備されさらに活力ある地域をめざして強い意志と行動力を示すべき気概をもってまいります。



2013年度専務予定者
飯岡 昌司



2013年度副理事長予定者
河合 良紀



2013年度副理事長予定者
泉田 智行



2013年度副理事長予定者
大柿 乃輔



2013年度副理事長予定者
石川 歩

新入会員紹介

New Members
2012

42
名



大山 晃弘
おおやま あきひろ
アイリスオーヤマ(株)



遠藤 隼人
えんどう はやと
参議院議員
愛知治部事務所



猪又 隆広
いのまた たかひろ
衆議院議員
秋葉賢也事務所



伊藤 大輔
いとう だいすけ
(株)仙台放送



雨宮 正博
あみやま まさひろ
クラインターナショナル



木村 満
きむら みつる
木村社会保険労務士・
行政書士事務所



菊地 由尚
きくち よしひさ
(株)竹中工務店



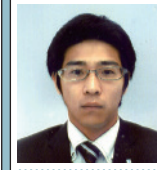
鎌田 直樹
かまた なおき
調デバ電気システムサービス



片桐 広勝
かたぎり ひろかつ
ジブラルタ生命保険(株)



角地 了
かくち りょう
(株)清月記



加賀谷 勝浩
かがやかつひろ
名鉄観光サービス(株)



島田 悦平
しまだ えっぺい
(株)島田製作所



澁谷 智子
しぶや ともこ
澁谷メディカル(株)



櫻井 啓史郎
さくらい けいしろう
(株)櫻井防災



斎藤 智賢
さいとう ともりの
(有)ニースネクスト



今野 淳志
こんの あつし
和のくらし



黒澤 基央
くろさわ もとひさ
(株)エヌ・ティ・ティ・
データ東北



熊谷 大
くまがい ゆたか
参議院議員



富樫 章太郎
とがし しょうたろう
(株)富樫工業



寺嶋 優
てらしま まさる
寺嶋建設(株)



土屋 将範
つちや まさのり
土屋不動産(株)



土田 寛夫
つちだ ひろお
(有)熊谷



千葉 貴治
ちば たかひろ
医療法人社団
千葉クリニック



菅原 雄太郎
すがわら ゆうたろう
特定非営利活動法人
グリーンライフ東北



菅原 洋光
すがわら ひろみつ
(株)つるおか家



庄司 誠
しょうじ まこと
ジャパンインシュアランス(株)



藤島 大介
ふじしま だいすけ
(株)青葉タクシー



平野 寿樹
ひらの としき
Hair & Make PASHA



早瀬 涉
はやせ わたる
(株)ラポールヘア・グループ



橋本 陽一郎
はしもと よういちろう
(株)東北食材



野村 一仁
のむら かずひと
(株)ディーパス



新沼 史智
にいぬま ふみとも
(株)アイエスエフネットライフ



内藤 梓
ないとう あずさ
(有)アクティブノバージョン仙台



常盤 俊介
とぎわし じゅんすけ
常盤洋紙(株)



渡辺 敬信
わたなべ たかのぶ
仙台市議会議員



渡邊 勝幸
わたなべ かつゆき
ふるさと宮城22



李 由美
り ゆみ
韓han SALAN



峯田 浩一
みねた こういち
HiROコーポレーション



水沼 一成
みずぬま かずなり
(株)エムユニット



三浦 真人
みうら まさと
(宗)保春院



松村 和昭
まつむら かずあき
(株)ワンアイド・キャピタル・
アドバイザーズ



船田 究
ふなだ きわむ
特定非営利活動法人 学割net



新たに42名の同志が仙台JCCに加わることとなりました。それぞれが、英知と勇気と情熱をもったJAYCEEであります。正会員承認に至るまでには、研修期間として、仮会員セミナー・IIに出席いただき、JCCの基礎知識をしっかりと学び、例会や事業への参加を通じて、様々な経験を積んでまいりました。会員開発委員会が、最も伝ええたかった「JCC運動の本質について、一定の理解が得られたものと確信いたします。そして、厳しいトレーニング期間でありましたが、ひとりも欠けることなく全うできたのも、ひとえに、スポンサーをはじめとした多くの現役会員の皆さまのご支援で協力の賜物と認識しております。ご厚情に、あらためて御礼を申し上げます。

これから42名の次代を担うJAYCEEは、卒業までにJCCという学び舎で多くの経験や気づき、さらには、たくさんの方の友情を得ていくでしょう。そして、大きく成長し、社会に、地域に必要とされ、信頼され、愛される地域のリーダーになっていくでしょう。

現役会員の皆さまには、引き続きのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

次回予告

のぞみ
Vol.396

私たちが仙台JCは、今後も地域発展のために活動してまいりますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、広報誌「のぞみ」の発行にご協力いただきました皆さまに心から御礼申し上げます。

公益社団法人仙台青年会議所広報誌「のぞみ」をご拝読いただきましてありがとうございます。本年度仙台JCは新たな仙台（まち）の創造へ向かってすすべての人へ感謝の想いを胸にスローガンに活動してまいりました。その中で広報委員会は広報誌、ウェブサイト、記者発表を活用し活動が運動につながるように広報活動を行なっております。

今号の巻頭企画では、復興に向かって日々活躍されている女川町長須田善明氏と対談を行いました。震災時のお話、取組まれている問題点、そして未来に向けてのお話を聞かせていただきました。須田町長の並々ならぬ想いに編集者として熱い想いがこみ上げてきました。

今回の紙面にも掲載いたしました。下期は国際交流の機会に恵まれ他国のLOM活動について知ることができました。仙台JCは仙台七夕花火祭、青少年育成事業、地域発展事業を中心に多くの活動を行いました。また、本年も42名の新たなメンバーが仙台JCに入会し、今後の活躍が期待されています。さらに、2013年度の新体制も決まり、次年度に向けた活動が始まりました。活動がよりわかりやすく地域に根付くために工夫を重ねて、今回の広報誌「のぞみ」を発行いたしました。仙台JCを一人でも多くの方に認知していただければ幸いです。

発行情報

のぞみ Vol.396 2012年12月1日発行

○発行 公益社団法人仙台青年会議所
○住所 仙台市青葉区本町2丁目6番12号 仙台商工会議所ビル8階

- 担当専務理事
- 担当室長
- 委員長
- 副委員長
- 副委員長

中田昌宏
村上英生
中川啓朗
及川博仁
小西史人

- 幹事
- 委員

伊藤 亨
伊藤 大
立花 翼
西巻 徹
堀内周光

和田冬樹
後藤雄大
中尾浩之
野口勝美
松井佑介

齋藤謙士
長嶋豊晴
福井崇正
門傳喬仁



あなたのカーライフをサポートする自動車部品の総合商社



三和自動車商事株式会社

◎アルミホイール修正 ◎油圧ホース製作 ◎タイヤ販売 ◎各種研磨 等

本社/仙台市宮城野区扇町三丁目8番7号 (仙台自動車団地)
TEL: 022-232-0381

HP <http://www.sanwa-parts.com/>

古紙・資源物
回収全般

産業廃棄物
処理

機密書類
処理

一般廃棄物
処理



お客様に感動していただける企業をめざして
地球にやさしい



ISO14001・プライバシーマーク取得

事業本部
仙台市宮城野区岩切字分台52
TEL 022-255-3150 FAX 022-255-9955
<http://www.kk-saikoh.co.jp/>

サイコー

検索



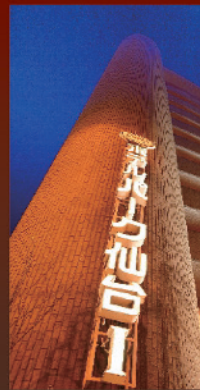
ホテルプレステージII

仙台市青葉区立町 23-16
TEL : 022-263-5556



ホテルパレス仙台

仙台市宮城野区小田原 1-1-5
TEL : 022-299-7521



ホテルパーク仙台I

仙台市青葉区花京院 1-4-14
TEL : 022-227-3521



ホテルパーク仙台II

仙台市青葉区宮町 1-1-79
TEL : 022-261-7626

杜の都仙台に4つのホテル
ビジネスに利便を、観光に思い出を・・・

立地と寛ぎが選べるDAIWAホテルチェーン